

歴博 ぐらしの植物苑だより

第98回ぐらしの植物苑観察会 5月26日(土) 13:30~15:30

「ハンカチノキとメタセコイヤー生きている化石」 百原 新 (千葉大学園芸学部)

第99回ぐらしの植物苑観察会 6月23日(土) 13:30~15:30

「シーボルトとぐらしの植物苑」 辻誠一郎 (東京大学大学院)

観察会当日は10:00から季節の苗の有償頒布があります。5月はウリ科の苗、ナデシコ、オミナエシの苗などがあります。数に限りがありますので、ご了承ください。

伊勢ナデシコを展示しています

江戸時代後期、伊勢の松坂地方で花卉が下垂するナデシコが改良されました。秋の古典菊で展示いたします伊勢菊とともに伊勢三珍花といわれます。もうひとつは花菖蒲です。



春のモミジを展示しています。

秋の紅葉のような黄・赤色をしたモミジをご覧いただけます。東屋の周りには、葉に一芸のあるモミジたちがそろっています。

ヘラオモダカ (オモダカ科ヘラオモダカ属)

水生または湿地性の多年草で、葉身はヘラ形になります。枝は3本の枝を輪生し、さらに3本の小枝を輪生します。花は3枚の白い花卉を持つ、小型の両性花で、水田でよく見ることができます。



シラン (ラン科シラン属)

低山地や林縁を好む地生ランですが、庭によく植栽されていて、野生のものはほとんど見ることはありません。地中にある球形の儀球茎は白及根と呼ばれ薬用に、また粘性があるので七宝細工の接着剤にも利用されています。



サンザシ (バラ科サンザシ属)

中国原産で庭木として栽培される落葉低木です。新枝は有毛で刺があります、葉がでるとともに散房状の花をつけます。秋には紅色に熟した球形の果実をつけます。



イグサ (イグサ科イグサ属)

茎を畳表や花むしろの材料にします。茎は円柱形で葉は退化して短い鞘状となります。花は多数の緑褐色の小花が咲きます。イグサは初夏に先刈りし、若い芽を伸びださせ7月中旬に刈り取り利用します。



カマツカ (バラ科カマツカ属)

丘や山地に生える落葉低木で、白い複散房花序をつけます。花には雄しべが20本もあります、花弁は5枚。鎌の柄にされることからカマツカの名があります。カマツカには葉が無毛のカマツカ、有毛のワタゲカマツカ、中間のケカマツカの変種があります。



サワフタギ (ハイノキ科ハイノキ属)

山地や谷間に多い落葉低木。多数の白い花が集まって咲きます。花冠は深く5裂し、雄しべは多数あります。秋には藍色の果実をつけます。よく茂って沢をふさぐようになるので、サワフタギの名があります。

園芸品種

セイヨウシキミ



スイレン”アトラクション“

